



街路樹は誰のもの？ トウカエデ物語 ～みんなで決めたことなのに～

1

ここは「とある市」。秋になると市役所の電話が鳴りっぱなしです。駅に続くメイン通り沿いにある街路樹の「トウカエデ(唐楓)」の葉っぱのせいです。トウカエデというのは、もみじの仲間です。秋には赤く紅葉し、実はヘリコプターのようにクルクルと回って落下します。

2

苦情の内容は次のようなものです。

「家の樋に葉っぱが詰まるので、掃除にきてくれ。」「葉っぱが店の敷地に入ってきて、店員が一日に数回掃除をしなければならぬ。そのコストは誰が支払うのか？」

「たくさんの葉っぱが風で道に飛び、雨に濡れて、車がスリップした。ぶつかりそうになった。」

「小学生の子どもが、学校の帰りに実をとばして遊んでいる。夢中になって車道に飛び出してきた。事故にあったらどうするんだ。」

…ほんの一時期なのですが、毎年苦情は増えているように思います。

3

このトウカエデは市が市道に植えたものです。木の選定は道路が新しくなった時に、道路に面する町内会の代表の人と話し合っただけで決めました。景観的にもきれいだし、子どもたちも遊べる。夏には大きな影を落としてくれ、葉っぱの成長で季節感が楽しめる。…というのが選定理由でした。

もちろん、苦情を寄せた方々は「そんなのいつ決まったかも知らん。とにかく掃除の業者をよこせ、無理なら役所の職員が掃除に来い。」の一点張りです。市役所の中では、これらの苦情に対応するための緊急会議が行なわれました。

4

さて、会議室をのぞいてみましょう。

「道路沿線の町内会に、苦情のことを伝えましょうか？」

「店舗の方は町内会には入ってません。また、この地域の町内会の加入率は40%です。」

「40%なのに、町内会が決められるのですか？」

「昔からこういうことは、沿線の町内会と一緒に住民参加で決めることになってるんだ。」

「小学生は喜んでいるみたいですね。」

「公園ならともかく、道は危ない。事故につながる可能性もあるので、遊びを禁止する立て札をたてましょうか。でも、予算化は来年になってしまいますね。」

「昔なら業者が清掃に行ったのだが我が市も財政難。堤防の草刈りも減らしている。」

5

では町内会に頼んで、輪番で掃除をしてもらいましょうか。」

「町内会は自治、行政から言うことはできない。」

「広報誌で街路樹はまち並みの景観や安らぎだけでなく、CO₂を減らすことや、地下水の確保という環境面でも有効なことを説明したらどうでしょう。夏は気温も下がるし騒音防止にもなる。いいことだらけなんだから。」

「運転時の日差しを遮断してドライバーの事故率を下げたり、火災の際には延焼を防止するんですけどねえ。そこまで市民には伝わっていないようですね。」

「環境問題は環境課の仕事、防災は危機管理課、うちがどうのこうのいつては越権行為になる。広報の『ワンポイント知識』くらいで啓発するのならいいだろうが。」

「では、広報を通じて住民に街路樹の必要性を十分説明することで…よろしいですね。」

6

結局、その年は落ち葉や実が落ちてくる前、葉っぱが赤く染まった一瞬を見はからい、業者の車が枝を全部切っけいき、木は随分と小さくなりました。

…ちなみに「楓」の花言葉は「遠慮」とか。

